

## 令和 5 年度 亀田東児童館事業実施報告書

## 1 実施した事業      2 自己評価      3 課題と対応

## 1 健全な遊びを通じた児童の集団及び個別指導

## ① つくってみよう！（創作活動室）

4月「かざぐるま」5月「ぶんぶんごま」6月「リール付きつりざお」7月「段ボール  
 ハンドスピナー」8月「スケルトンヨーヨー」9月「モビールのび～るへび」10月「宇  
 宙人のくるくるダンス」11月「紙コップ UFO キャッチャー」12月「クリスマスリース」  
 1月「じたばたウサギとじたばたドラゴン」2月「ルーレット」3月「カズー」

## （自己評価）

今年度も昨年度と同様毎月1つずつ工作を準備し、来館時にいつでも自由に製作が楽  
 しめるよう簡単な工作を常時提供した。創作活動室に全ての材料を準備し、作りたい人  
 が作りたい時に製作出来るように環境を整えた。子ども達それぞれが作り方を見て、読  
 んで、理解し、作って遊ぶことを楽しんでもらえるよう働きかけた。このスタイルはず  
 っかり定着し、先に製作した子が他の子に作り方や遊び方を教えてあげる等、友達同士  
 や異年齢同士で教え合う姿も多く見られた。

今後も子ども達が楽しんでいる様子をヒントに、発想を広げて楽しめる工作を提供し  
 ていきたいと思う。

## （課題と対応）

どの月においても「作って遊ぶ」ことを狙いとしているが、作ること自体を楽しんで  
 作って気が済んでしまい、その場で遊びを楽しむことまでいかない子が多く見受けられ  
 たことが残念であった。また、見本と全く同じようにそっくり真似て作る子も多く、創  
 意工夫を最大限に引き出せなかった。毎回全ての子ども達の見守りは難しいが、出来る  
 だけ遊びの楽しみ方まで伝えられるような工夫や、子ども達の創作意欲や創意工夫が湧  
 くような見本作りを行っていきたい。ただ、児童館での工作は未完成でも、失敗と思わ  
 れるものであっても、全てが素晴らしく、どの作品も工作を楽しむことが出来たなら大  
 成功だと考えている。

さらに、危険行為の防止のため、今年度より昨年度まで創作活動室に出していたハサ  
 ミを事務室での貸し出し制とした。工作をする際には必ず事務室にハサミを借りに来る  
 ところからスタートするのだが、使った後に返しに来ない子や保護者も数名おり、ハサ  
 ミの貸し借りの方法を伝える声掛けを徹底していなければならない。

毎月の工作の材料は大体 80 人分を目安に準備しているが、職員の負担がかなり大き  
 い。職員の負担軽減のため、次年度より「つくってみよう」の工作の提供を2か月に一  
 度、奇数月のみ 80 人参加想定で提供することとした。毎月の工作を楽しみにしている  
 子達はとても大勢いるため、内容のクオリティーは変えず、簡単で幼児～小中高生まで  
 誰でも楽しめる工作の提供を続け、現代の子達の手先の訓練、ハンドメイドの経験を積  
 む場としていきたい。

## ② なっちゃんダンス (遊戯室)

(4/2・5/14・6/14・7/9・8/20・9/10・10/8・11/12・12/10・1/14・2/11・3/10)

昨年度より定例化し大好評だったなっちゃんダンスは、今年度も引き続き原則毎月第2日曜日午前10時～開催した。毎月なっちゃんこと下田奈津美先生の抜群のダンスパフォーマンスとご指導を求めて多くの参加者から申し込みがある。今年度は新型コロナウイルスが5類に引き下げられた影響で、一般来館の増加に伴い、各イベントの参加者数も増加した。なっちゃんダンスも幼児親子から小学生までの多くの子ども達が参加してくれている。特に子どもだけでなく保護者も巻き込み、幅広い年代と性別、区内外問わず多くの人達が一緒に楽しむことが出来ているのはこのなっちゃんダンスの特徴であると考えている。月1回ではあるが、子ども達の集中力や基礎体力の向上の他、自己肯定感が養われ、他を思いやる心や協調性等が育まれる期待がある。親子で参加しているケースも多く、家族で「運動不足解消！」等と言いながら楽しんでいる姿も微笑ましい。幼児親子～小学生まで「毎月第2日曜日はなっちゃんダンスの日」が定着してきており、嬉しい限りである。

また、12月のクリスマス会は昨年度同様「なっちゃんダンス de クリスマス」と題して、クリスマスソングを下田先生オリジナルの振付で楽しく踊るという会を開催。幼児親子向けには抱っこやトンネルくぐり等の親子での触れ合いが交えられていたり、小学生向けには最後に全員で手を繋いでラインダンスを行うなど、各年代の心をがっちりと掴む楽しいプログラムで大いに盛り上がった。このクリスマス会を機に、毎月の教室の参加者が増え、1月以降当初設定していた定員の20名を多く超える予約状況となっている。クリスマス会に参加した方々がその場で1月の教室に予約をし、そのまま継続して予約が埋まっている状況。日曜日は教室参加者以外の一般来館も多いため、ダンス教室の日は亀田東小学校の駐車場をお借りし、駐車場の問題には対応している。

開催継続希望の声は今年度も多く、下田先生からも了解を得られたので、来年度も引き続き月1回の開催が決定している。

## ③夏休みお楽しみ会 妖怪現る！？ (遊戯室)

(8/20)

毎年夏休みには映画上映を行っていたが、遊戯室の天井付近の天窗カーテンが1か所故障していたことで映画上映を行うことが出来ず、代替案として急遽夏休みお楽しみ会を企画し、実施した。「5人の子ども好きな妖怪たちが児童館近くに出没しているらしい」という架空のお話からスタートした妖怪まつり。イベント告知が児童館だよりへの掲載には間に合わず、館内掲示とホームページ掲載のみで告知を行った。さらに開催数日前から来館した子ども達に自由に妖怪の絵を描いてもらい、館内の至る所に掲示し妖怪ムードを盛り上げた。子ども達のワクワク待ち焦がれている様子も伝わってきた。

当日は「怖くないもん」と言っていた子ども達の多くが、友達同士手を繋ぎ合っつけてくっついて見ている等、恐る恐るという表現がとても合っていた。3人のプロ楽師によるインド音楽の演奏はこれまで児童館では味わったことのない空気を醸し出し、語り部の妖怪話には皆引き込まれるように聞き入っていた。そこへ登場した5人の妖怪たち。息を呑んで見ている子ども達、泣き叫ぶ小さな子ども達、母親の陰に隠れる子ども達等、

悲喜こもごも楽しむ姿が見られた。

急遽の開催となったが、職員のアイデアや人脈で多くの参加者に恵まれ、多くの人達に楽しんでもらえることが出来た。

#### ④ アトリエじどうかん・ぬりえコンクール（創作活動室）

（アトリエじどうかん毎月第一月曜日 15時30分～、  
ぬりえコンクール7/18～8/28・12/12～12/26）

（自己評価）

昨年度は主にひまわりクラブ第一の子ども達の参加が大半であったが、今年度は新型コロナウイルスの5類引き下げによる一般来館者数増加に伴い、一般来館による参加者が1年を通して徐々に増加した。アトリエじどうかんの開催も新規利用者に定着し始め、毎月楽しみにして参加している小学生女子も数名いる。イラストレーター中井瑞貴先生の手描きによるお手本と題材を毎回2～3種類用意し、子ども達には自由に選択して塗ってもらっている。中井先生の指導の下、水性色鉛筆の色の広がりやコーヒーを使用した陰影の付け方を楽しんでいる。中井瑞貴先生の繊細で見事なお手本をコレクションしている小学生もいるほどで、子ども達の期待度、関心度の高さが伺える。

また、今年度も年2回（7～8月、12月）にぬりえコンクールを開催し、中井先生には審査をお願いした。毎回フライングで結果を見に来る子がいた他、普段あまり来館しない子がぬりえコンクールにだけは欠かさずに参加し、結果を一人で見に来たり、家族で見に来たり等々、一喜一憂する様子が多く見られた。中井先生の講評もとても丁寧で子ども達への愛が感じられた。夏冬どちらも児童館利用者、亀田東ひまわりクラブ第一～四までの子ども達に参加してもらい、どの子達からも期待度の高さが伺えた。また特に12月のぬりえコンクールは、中井先生が描かれたオリジナルのぬりえに特化した。普段提供していただいている中井先生のぬりえは動物や食べ物等が根強い人気があり、これまでの作品の中から幅広い学年・年齢の子ども達が取り組みやすい作品9点を課題とした。普段のぬりえよりも線画が細かく「レベルが高くなった！」と参加者達の意欲も上がっていたようだ。

（課題と対応）

アトリエじどうかん、ぬりえコンクール共に利用者からの期待度が大いに高い物であるため、次年度以降も継続して開催していく。ぬりえコンクールに関しては、今年度冬と同様、中井先生のオリジナルのぬりえに特化し、亀田東児童館の独自性を持たせながら年2回開催していく。中井先生から昨年度著作権に関するご指摘をいただいていたこともあり、留意しながら利用者の創意工夫を惹き出せるような教室、コンクールを開催していきたい。

#### ⑤ サッカー教室・サッカー大会（遊戯室）

（サッカー教室 毎月第一・三水曜日 15時30分～、サッカー大会 3/12）

（自己評価）

今年度より学年による実力の差を考慮し、年間を通じて学年によって開催時間と内容を変更して開催した。15時30分～16時までは小学1・2年生、16時～16時30分までは小学3・4年生とし、学年によるそれぞれのレベルに合わせた内容は、安達監督に全

て委ねた。また、昨年度作成したサッカーの約束が書かれた紙を毎回参加者に配布し、教室の始まる前に読み合わせ、約束を確認し合っている。実際に学年によって時間を分けてみると、低学年は女子も参加することが出来、上学年からの圧力もなく、性別問わず初心者や経験者も関係なく、伸び伸びと楽しむことが出来た。小学3・4年生達は素直に職員や監督の話を聞くことが出来、少人数ながらも和気藹々とリフティング勝負や試合を楽しんでいた。昨年度まで心無いヤジが飛んだり、監督の指示を聞かずに自分勝手な行動が多々見られていたが、今年度は年間を通じて参加者、監督、職員など教室に関わる全ての一人一人が気持ち良く楽しむことが出来ていたことを実感している。これまで民間のサッカークラブに所属している男子らで占めており、「サッカーをやってみたい」「純粋に楽しみたい」といった初心者の子も達が参加出来ないような他を寄せ付けない排他的な空気があったが、女子や初心者の参加が増え、「サッカーを楽しむ」空気が満ち溢れている。昨年度から比べ、性別問わず幅広い学年の子達が参加出来る雰囲気へと1年でガラッと様変わりすることが出来た。理想的な開かれた教室へと近づいていることを実感している。

1年間のサッカー教室での練習の集大成となるサッカー大会。小学1～3年生の部、4年生の部に分かれてそれぞれ試合を行い、出場した子ども達は日頃の練習の成果が十分に発揮出来ていたと思う。今年もチームプレーが光る素晴らしい試合だった。地域のサッカークラブのチームに所属している子達も数名いる他、普段からサッカーに夢中な子が多い。性別や校区の垣根を越えて参加する子が多く、大会の効果、関心度の高さが伺える。

子ども達のニーズが最も高いものであるため、教室・大会共に次年度も継続して実施していきたい。

(課題と対応)

教室・大会共に1, 2年生の低学年の部は子ども達だけの参加だとなかなか参加しづらい子が多く、親子で楽しむ形で開催するのはどうかと安達監督より提案を頂いた。実際に他区の1年生男女が教室に参加する際、サッカーが初めてということもあり、特に女子は当初乗り気ではなかったが、母親も一緒に参加することで渋々ながらも参加した。内容は「ボールと仲良くなろう！」を目標のもと、ボールを蹴りながら散歩したり、ドリブルやパスを親子でゆっくり挑戦してみたりといったところからスタートし、最後は子ども対大人で試合を行い、シュートが決まると子ども達からはガッツポーズが飛び出すほど、30分間であっという間にサッカーが大好きになっていた。次年度以降は、子ども達のサッカーとの出会いが楽しいものになるよう、臨機応変に開催様式を変更しながら多様に対応していきたい。

#### ⑥ その他各種イベント

・アニバーサリー祭り (4/23) ・おもちゃ病院 (4/23) ・児童福祉週間こいのぼり製作、ぬりえ ・親子DE ドッジ (6/18) ・サイエンスサーカス (7/1)、  
・GOGO スタディー (7/31、8/1、8/24、25、12/25、26) ・七夕工作 ・ハロウィンパーティー (10/29) ・音楽会 (11/19)

(自己評価)

今年度も利用者に喜んでもらえるイベントを多く提供し、予算と労力、児童館の楽し

さを大いに還元することが出来た。特に年2回のお祭り（アニバーサリー祭り・ハロウィンパーティー）は、一度に最多数の利用者を楽しんでもらえており、毎年開催を楽しみにしてもらっている。特にハロウィンパーティーにて初登場した「かめガチャ」（手作りのガチャを回し、出て来たカプセルに書かれているお菓子がもらえるもの）はとても大人気で、次回以降も登場を望む声が多かった。またアニバーサリー祭りでは、「おもちゃ病院」をお呼びし、事前に利用者から壊れた玩具を回収し、当日おもちゃ病院さんに修理をしてもらった。壊れていたお気に入りの玩具が新品のように綺麗に動くようになって手元に戻って来た時の子ども、保護者の感動している姿が印象的だった。壊れたからすぐに新しいもの買い替えるのではなく修理をして再度使うということは、SDGsの一環ともなり、子ども達に物を大切に作る習慣を身に付けてもらう良い機会となった事と思う。

GOGO スタディーや音楽会など、子ども達の様々な能力、才能、やる気を引き出すもの、サイエンスサーカスのような子ども達の新たな興味関心を引き出すものなど、多岐に渡るイベントを開催し、子ども達の情操教育の一端を担うことが出来た。今後も利用者の声、ニーズに高くアンテナを張り、利用者の求めるものを利用者と共に実現していきたい。

#### （課題と対応）

参加者数が多いイベントに関しては、亀田東小学校の駐車場をお借りし対応し、当日には駐車場係も設置している。事前に告知もしているが、悪天候等が重なるとなかなか周知が行き渡らない事が多々ある。路上に駐車して子どもを乗車降車させる方もおり、近隣住民の迷惑となったり思わぬ事故に繋がるため、小学校駐車場利用、その周知を徹底していかなければならない。これ以外にも各イベントを開催すると毎回反省が残るため、一つ一つしっかりと職員間で確認・協議し、次回に繋げていきたい。

### ⑦ 移動児童館

（5/22、7/3、7/27、28、8/4、10、25、10/22、1/20、2/26）

#### （自己評価）

例年と変わらず、今年度も年度初めに江南区内全ひまわりクラブに向けて移動児童館の希望の有無、希望日程、希望内容等の調査・調整を行い、実施した。新型コロナウイルス5類移行に伴い、昨年度までは開催を自粛していたクラブからの依頼も増え、各1回ずつ10クラブで開催することが出来た。カプラや集団遊びが人気であり、それぞれ年度内に法人内で開催された研修で学んだ内容に基づき、昨年度から進化したものを提供しよう心掛けた。主に長期休暇や学校の行事の代休日に依頼されて出向き、支援員の方々には大変喜ばれ、子ども達にも大いに喜んでもらった。また、昨年度まで2～3年続けて依頼を受けていたが、感染拡大に伴い中止を重ねてきた早通小学校の文化祭でも念願の開催となった。さらに今年度は初の試みとなる移動児童館を通じた横越地区公民館との共催事業を行った。亀田地区公民館運営審議会でも知り合った横越地区公民館長から移動児童館に興味を持っていただいたことから始まった。公民館、児童館双方の周知拡大を目指し、小学生親子対象に「公民館ツアー」を企画し、その内の1ブースとして集団遊びやゲームを提供した。横越地区との関係はこれまで希薄であったため、新たな繋がりを大切にしていきたい。横越地区公民館からは次年度も共催事業の依頼をいた

だいており、年2回の開催を検討している。移動児童館的な集団遊びの提供だけでなく、児童館の機能移転も視野に入れている。

(課題と対応)

次年度は児童館のない地域で子ども達の居場所作り、児童館の機能移転を行い、児童館の事業をより幅広く拡大していけるよう館外にも広く目を向けていきたい。また運営協議委員である指導保育士 関氏より保育園での移動児童館の実施の打診を2度ほど受けている。これまで人員配置の難しさからコロナ以降実施していなかったが、園児から保護者へ「こんな遊びをやって楽しかった！児童館に行ってみたい」という声が届き、新たな利用者層の獲得、より幅広い児童館の周知拡大を目指し、次年度以降は体制を整え、ひまわりクラブ同様、近隣の保育園への希望調査・利用調整を行い、順次実施していく。

2 中学生・高校生等の年長児童の自主的な活動に対する支援

(自己評価)

定期テストの前後で部活が休みの日や休日に来館する中学生が多かった。中でも部活を引退した中学3年生が受験勉強の息抜きになまった体を動かしに来る姿が多く見られた。体を動かす以外にも遊戯室の予約の時間の合間には、友達同士で会話を楽しみながらじっくりカードゲームやボードゲームを楽しんだり、職員との会話に花が咲いていた。中学生は何をする訳でもなく、友達同士で一緒にいるだけで楽しいのだと改めて感じさせられた。

高校生男子の年2回のお祭りへのボランティア参加も継続出来ている。アルバイトを始めたことで以前よりも来館する頻度は減ったが、お祭りの時期が近くなると自分から日時を確認に来てくれ、当日はきびきびと頼もしく働いてくれている。彼の活躍の場、居場所の一つとしてあり続けている。

日々忙しく活動範囲の広い中高生がふと思い出した時にいつでも気軽に立ち寄れる居場所であり続けられるよう、いつでも誰でも温かく迎え入れる雰囲気づくりを怠らず行っていきたい。

(課題と対応)

勉強、部活、習い事等で忙しい日々を送っているため、限られた時間の中で来館してくれた時には有意義に過ごせるよう、遊戯室利用への配慮やいつでも話し相手になれるよう職員がゆとりを持って接していく。

また、令和8年度より中学生の部活動が地域移行することにより、中学生たちの放課後、休日の受け皿が必要となる。中高生たちの居場所として「児童館もある」ということを周知し、受け入れ態勢を整えていかなければならない。小学生の頃から中学3年生になる現在まで児童館を利用し、小学生時代にはこどもクラブまで務めていた子達ですら、児童館が高校3年生まで利用出来ることを知らなかったことが判明した。私たち職員が思っている以上に児童館の周知がまだまだ足りていない現状である。さらに上記の元こどもクラブメンバーの中学生からは、児童館のホームページが見つらいことを指摘された。中高生へのPRに最も適しているのはインスタグラムだと遠慮のない中学生の生の意見を遺憾なく聞くことが出来た。中高生に限らず、現代の全世代により広く児童館を周知するためにはインスタグラム等のSNSの活用が最も有効的である。次年度はSNSの運用を本格的に行っていきたい。

## ① 中高生遊戯室タイム

(毎週日曜日 17時～17時50分)

(自己評価)

例年同様、毎週日曜日午後5時～「中高生遊戯室タイム」を実施している。現在、亀田中学校にポスター掲示をして頂いているが、なかなか周知は広まっていない。中高生が来館した際に口頭で伝えており、その度に口を揃えて「知らなかった」と言いながら中高生優先の時間の存在を喜んでくれるのだが、部活や勉強、習い事等で日々忙しい中高生にはなかなか浸透・定着が難しい。今年度は土日に部活のほとんどない美術部や帰宅部、さらには部活引退後の中学3年生の男子達の利用が多かった。多くの中学生が自転車を利用するため、中高生遊戯室タイムに限らず、普段の利用も天候に左右される。また、冬季は日暮れが早くなるため実施時間にはすでに外は真っ暗になっており、女子の参加は難しいと考えられる。今年度も17時～の実施時間より前の時間帯に利用する中学生が多く、中高生遊戯室タイムを目的に来館する中高生はほんの一握りだった。限られた時間の中で利用してくれている中高生には、館内の混雑状況や他の来館者の様子を見ながら、中高生遊戯室タイム以外の時間帯にも優先的に遊戯室を使用できるよう臨機応変に対応した。

中高生の利用の促進、居場所作りの要となる重要な事業であるため、次年度も今年度と開催日を変更し、継続して実施していく。中高生遊戯室タイムがあるのだということを知ってもらえるよう、中高生の来館時にしっかりPRしていきたいと思う。

(課題と対応)

より中高生の利用を促進するため、次年度より開催日時を毎週土日祝日17時～17時50分に変更して実施する。常連の中学生たちから「土曜日は塾に通っている人が多い」「土日はそれぞれ部活か遊びに行っている」等の貴重な中の声を聞くことができ、それを参考にし、より児童館を利用する機会を多くするため開催日を増加した。また、4月より亀田中学校に加えて亀田西中学校にもポスター掲示をお願いする予定である。そのポスターも改良し、部活やスポーツに限らず吹奏楽や趣味のダンスの練習にも役立ててもらえるよう内容を変更している。さらにInstagramを開設し、より幅広い周知を図っていく。

中高生が児童館に足を運ぶきっかけに最もなりやすい事業であると考えているが、中高生にとってのニーズはどこにあるのか、果ては児童館が中高生にとっては必要なのか、深くニーズを調査していきたい。

## ② バドミントン大会

( 6/3、9/18 )

年間行事として中学生のバドミントン大会の開催を予定していたが、参加者をどう集めるか思い悩んでいたところ、亀田中学校の2年生が校外活動の一環として児童館に顔を出してくれたことがきっかけで、開催することが出来た事業である。そこでバドミントン大会の開催の提案をすると、即座に「やりたい!」と大喜びし、仲間集めも快く引き受けてくれ、とんとん拍子に6月の開催まで至った。それぞれが仲間に声を掛け合っ集まり、当日は中学1～2年生の男女17名の参加があった。ルールや試合形式等は中学生に一任しようと考えていたが、中学生たちは来館してすぐに職員に言われずとも

バドミントン部の子達を中心にペアの組み合わせを考え、トーナメント表を作成していた。審判や得点係も中学生達が自ら行い、日時と会場を職員が設定したのみで、自発的かつ能動的な良い大会の開催の方法であった。

8月の夏休み中にバドミントン大会に参加した中学生からドッジボール大会の提案があったが、なかなか参加者が集まらず開催できなかった。その代替行事として、2回目のバドミントン大会を中学生自身が企画し、実施した。職員とその場で開催日時を決め、バドミントン部のグループLINEで即座に参加者を募っていた。大きな告知をせずとも自ら人数を集め、開催にこぎつけたことは大いに評価したい。また、部活や大会とは違ってバドミントンを楽しんでやっている様子が随所に感じられた。

小学生の頃はしょっちゅう児童館を利用していても、中学生になると時間的に利用が難しくなる。そのため自然と児童館から足が遠退くといった図式はあるのだが、今年度は中学生たち自身で「やりたい」「やってみたい」を具現化させることが出来た。開催するにはどうすれば良いか、まず声を上げてプランを立ててみる。日程や人集め等を行う等、職員と相談しながら決めることが出来た。こうした積極性が子ども達の今後に繋がってほしいと思う。

こういった中高生向けのスポーツ大会があると、中高生の関心を引き、利用の増加に繋がる。実際に今年度も普段はほとんど利用しない子達の参加が多かった。まずは思い当たる子達を対象にした一本釣り形式の開催とはなるが、バドミントンだけでなく、卓球やバレー等、様々な種目で開催し、新たな中高生の利用の目的、居場所を作り上げていきたい。

### 3 子ども会等の地域組織活動の育成助長及び指導者の養成

#### ① こども会議（創作活動室）

（毎月第2土曜日9時15分～）

（自己評価）

4年生8名、5年生2名、6年生1名の計11名で一年間活動を行った。特にその内4年生女子2名は7月からの途中参加であったが、既存のメンバーが温かく迎え入れてくれ、緊張しながらもスムーズに輪に入ることが出来ていた。今年度も各イベントにおいて、職員顔負けの運営を行ってくれ頭が下がる思いであった。一人一人がクラブメンバーとしての責任感を持って任された役割をしっかりと全うし、とても良く頑張っていた。職員以上に丁寧に参加者に関わっていたり、職員の手が行き届かないところをすかさず補い、困っている参加者をいち早く見つけて報告してくれたり、その姿はさもベテランのようだった。また、毎回各イベント後にクラブメンバーと担当職員とで反省と振り返りを行うが、職員の意見と概ね一致することが多く、さらには職員では気付かなかった子ども達ならではの気付きもあり、大いにその後の運営に生かすことが出来ている。一人一人が仕事内容をしっかり把握、理解した上で意見を述べており、参加者思いの言動も多く見られた。4年生たちが自由奔放な発言をしても、5、6年生がビシッと中締めをしてくれ、それに他学年も納得する様子もあり、とても頼もしかった。また、都合が合わず会議に参加出来なかったメンバーは、その日の午後や後日に来館し、会議内容を確認しており、一人一人の成長ぶりとクラブメンバーとしての自覚に感激するばかりであった。

3月には今年度のこどもクラブの集大成として卒業する6年生女子へ感謝を込めて

「ありがとう会」を実施した。次年度も残るメンバーで企画立案から準備、実施まで子どもクラブメンバーが一から全て行った。普段は職員が準備をし、ある程度の枠組みが出来ているところを手伝ってもらっており、一からイベントの企画・運営を子どもクラブに一任するのは今回が初めて。多少の不安があったが、職員から「ありがとう会」の実施を提案した時からメンバーはとても乗り気であり、話し合いや準備の段階から大いに盛り上がった。6年生に感謝の気持ちを伝え、送り出す会であることをしっかりと理解し、自分たちで会を作り上げようと活発に意見が出ており、自主性・主体性が育ってきていることを実感した。「6年生の好きなことをテーマにみんなで遊ぼう！」という方向性で全員の意見を一致させ準備をし、当日は終始笑いが絶えない1時間となった。

この1年、様々なイベントを盛り上げてくれた子どもクラブ。活動を通し、学校や学年を超えて打ち解け、絆を深めてきた。何よりも子どもクラブメンバー自身がイベントを楽しみながら活動し、仲間と協力すること、意見を出し合い、落としどころを見つけること等、様々なことを学びながら一人一人が成長することが出来た。一人一人の意外や一面やキラリと輝く姿を沢山見る事が出来て私達もとても嬉しかった。今年度のどの事業も子どもクラブメンバーの存在なくしては成功はあり得なかった。亀田東児童館にとって唯一無二、なくてはならない存在である子どもクラブ。子ども達の自信にも繋がる子の活動は今後も大切にしていきたい。

(課題と対応)

子どもクラブの活動や子ども会議の内容、イベントの日程等が保護者に上手く伝わり切っていないことで活動を欠席してしまうことが間々ある。保護者にも子どもクラブが一体どんなことをしているのか知ってもらえるよう活動の様子を見てもらうのはどうかとクラブメンバーに提案すると、「参観日みたいで嫌だ」と却下される反面、「子ども会議を見てもらえれば活動内容が分かると思う」という素晴らしい意見ももらった。子どもの柔軟な発想に改めて学ばせてもらった思いだった。これまで保護者への子どもクラブの活動内容、子ども達の様子を詳しく知らせることはしていなかった。しかし活動内容や様子を知り、保護者もより関心や自覚を持ってもらえると、よりクラブ活動が円滑に行えると考えられる。活動の周知の一環の足掛かりとして、今年度11月「音楽会」後にクラブメンバーの活動写真を保護者に配布した。次年度以降は、クラブメンバーの保護者へのお知らせにも力を入れていきたい。

次年度は、既存メンバー10名に加え、亀田東小、亀田西小、亀田小学校それぞれから新メンバー7名が仲間入りし、17名で始動する。他校区からの参加も多くなるため、保護者連絡や子ども達への小まめな声掛けを徹底していきたい。

#### 4 子育て家庭の支援

##### ① ひよこ広場 (毎週水曜日10時30分～)

(自己評価)

今年度より「今月のうた」「今月の手遊び」をプログラムに導入した。1か月間毎週同じ歌や手遊びを行う事で、参加親子が歌や遊びに親しみ、皆で共有し楽しむことを目的としている。0, 1歳児の参加が多くなっているため、子どもの成長に合わせた内容として喜ばれているようである。また、第1週目は今月の歌と遊びの紹介を含め、季節感のある演目にし、第2週目には親子で工作(月初めに告知し受付カウンターに見本を飾る)、第3週目はボランティアの関口 三恵子さんによる絵本の読み聞かせ、第4週

目にはお誕生日会を行うこととした。誕生日会は利用者からの強い希望が多く寄せられ、今年度5月より開始した。専用の看板を壁面に貼り撮影コーナーとした他、バースデーケーキの大型パネルシアターにデコレーションしたり、主役の誕生日児には冠をかぶってもらう等、これまでになかった演出で参加者皆でお祝いをし、とても和やかな会となっている。

今年度も例年同様に年度替わりでそれまでの常連の多くが入園し、少人数の参加が長く続いた。新型コロナウイルスが5類に引き下げられたことで、母親らのフットワークも軽くなっていると思われるが、年度替わりのタイミングはなかなか児童館が周知されていない感じが見受けられる。年間で平均4組の参加であった。参加者の定着・継続が難しく、参加者は少なかったが、毎週カラーの違うメニューであるため、内容がマンネリすることなく、その都度参加してくれた親子は楽しんでいるようだ。

次年度以降も親子のニーズはどこにあるのか探りながら、より良いものを継続して提供していけるよう、職員一同研鑽に励みたい。

(課題と対応)

今年度は特に定期的に参加してくれる親子の獲得に苦戦を強いられた。さらには平日午前中の一般来館による利用も、例年では秋頃から増える傾向にあるが、今年度は1月になりようやく増えてきた印象がある。これまでの平日午前中に児童館を求めてくる幼児親子の特徴としては、2、3歳頃の入園前の常連の親子が数組おり、長期間長く児童館を利用してきていた。しかしここ1～2年の近年では、入園の時期がかなり早まっているように感じている。1歳児で入園する子が多く、ようやく歩けるようになり、沢山動いて遊べる児童館のような場所を求めるまでもなく、入園してしまっている。

以上を踏まえた対応として、次年度は開催曜日を水曜日から木曜日に変更する。これは、より多くの親子に参加してもらえるよう、近隣の子育て支援センター等のイベント開催曜日が比較的少ない曜日としている。また、そもそも普段の利用者の傾向がやっとハイハイが出来るようになった子やようやく歩き始めの子ばかりで、出来る遊びが限られており、これまで遊戯室の広さを生かした走り回る等の動きのある内容を主としていたが、今後はより月齢の低い子ども向けの内容にしていく。また、4月以降の利用者の様子を見ながら、開催時間の短縮など、より親子が参加しやすい方向に、臨機応変に見直していきたい。

## ② 育児イベント (毎月1回)

- ・おひるね&おすわりアート (4/26, 9/28, 12/4, 3/12)
- ・ベビーマッサージ (6/7)
- ・セタリトミック (7/5)
- ・保育コンシェルジュさんに聞いてみよう「入園のお話」 (8/29)
- ・敬老手形 (9/13, 14, 15)
- ・ひよこ運動会 (10/6)
- ・ベビーヨガ (10/11)
- ・人形劇 (11/27)
- ・クリスマスコンサート (12/6)
- ・足育講座 (2/3)
- ・ひなまつりコンサート (2/29)

(自己評価)

今年度より亀田地区公民館による家庭教育講演会の児童館での開催がなくなり、全て自前での企画・開催となった。おひるね&おすわりアート、ベビーマッサージ、敬老手形、ベビーヨガ、運動会、クリスマスコンサート、足育講座等人気のあったイベントは継続して開催した。今年度はさらに、新たな試みとして保育コンシェルジュによる入園

のお話、七夕リトミック、ひなまつりコンサートを開催した。保育コンシェルジュを招いて行う事業は今年度が初となる。昨年度までは県立大学の齋藤裕教授をお招きし、心の発達に関する話を交えながらお話をさせていただいていたが、今年度はより専門的で身近な存在である江南区の保育コンシェルジュから、入園にのみテーマを絞り、より具体的な濃い内容の話を聞くことが出来た。コンシェルジュからの配布資料の中に「食品摂取表」があり、事前に準備出来るものとして母親達には大変喜ばれた。入園を希望する月齢・年齢が年々引き下がっている昨今、ニーズの高さが伺えるため次年度以降も継続して開催していきたい。七夕リトミック、ひなまつりコンサートは職員の人脈を利用し、今まで亀田東児童館ではお呼びしたことのなかった方をお呼びし、乳幼児親子に人気のリトミックや親子で楽しめるコンサートを開催した。各講師それぞれのファンの方もいるほどで、大盛況であった。コンサートをしてくれたTAMIさんの「ママが楽しいと子どもも笑顔になる」の言葉通り、楽しくてあっという間の時間ではあるが、子育てに真っ只中の母親らの励みになっているように感じた。

今年度も様々なイベント、講座を通して親子を多角的に支援することが出来た。次年度以降も新たなニーズも探りながら、継続して親子共々笑顔になれるものを提供していきたい。

(課題と対応)

次年度以降もBPプログラムと連動させてイベントを開催し、BPプログラム参加者が講座終了後も継続して児童館を利用出来るような環境を整えていく。

今年度は特に人気のクリスマスコンサートやおひるね&おすわりアート等のイベントに関しては、参加予約受付開始の30分～1時間または1日であっという間に埋まってしまう、中には電話が繋がりにくくなることを見越して、開館前から駐車場にて待機して予約をする方もいた。「児童館のイベントは予約が取りにくい」と定着されているような印象もあり、ネット予約の導入を希望する声を母親達から何度も聞いた。イベントのみに参加する方が多く、普段から利用してくれているいわゆる常連の方たちが人気イベントには参加出来ていない現状もある。ネット予約の導入や新たな予約の方法など職員間でかなり検討したが、職員配置やシステム導入によるコスト等の観点から難しい。また、私たちは本格的なイベント企画の会社ではなく、あくまで「児童館内のイベント」を企画しており、日々の利用者と直接的に関わり、そこでいただく生の声を大切にしてイベントの企画、運営を行っていきたくと考えている。利用者との対話を大切にしながら、今後も変わらず、直接来館・電話での予約で対応していきたい。予約の取りづらい現状を受けて、今年度はおひるね&おすわりアートに関して、急遽3月に4回目を開催した。従来はおたよりやHP上に掲載し大々的に告知を行っていたが、今回は館内掲示にのみ留め、普段からこれまでなかなか参加出来なかった方たちに参加してもらえるよう配慮した。これまで泣く泣く諦めていた方たちの多くが参加でき、大変喜ばれた。

1年を通して春～夏にかけては入園を皮切りに利用者層が入れ替わるため、なかなか児童館の周知がされておらず、秋頃から徐々に定着していつている。次年度以降も利用者の様子を見ながら、イベント告知の方法を変更しながら、一人でも多くの利用者を楽しんでもらえるよう邁進していきたい。

また、9月に開催したBPプログラムに参加した母親達から、父親達が主体的に参加

が出来るイベントがあると良いと意見をいただいた。母親は普段から支援センターや児童館で情報共有をしたり、母親同士で話をする場があるが、父親にはそのような機会がそもそも少なく、平日のイベントでは父親が参加しにくいとのことであった。これまで休日に父親対象の幼児親子イベントを企画しても参加者が集まらず、開催に至ることが出来なかった。しかし最近では父親だけで子どもを連れて来館する方も多く、父親が主体的に育児に参加している姿が多く見られ、意識の変化を感じている。そこで2月の土曜日に「パバママセミナー」として「足育講座」を開催した。普段のイベントも父親の参加を可能としているが、実際にイベント名に「パパ」と名前が付くだけで参加に対するハードルが下がったのか、平日のイベントより父親達の参加が多くあった。この実績を生かし、次年度以降はより父親が育児に積極的になり、夫婦で共に足並みを揃えて育児をしていけるような講座やイベントを定期的に開催していきたい。

### ③ B Pプログラム“赤ちゃんがきた！”親子の絆づくりプログラム

- (1) 6/2・10・14・23 (2) 9/1・8・12・23 (3) 11/24・12/1・8・12  
(4) 2/27・3/1・8・15)

#### (自己評価)

B P講座は第一子の育児をする母親のための「仲間づくり・親子の絆づくり・少し先を見通した育児の知識の学習」を目的とするプログラムであり、自主事業として立ち上げ3年目を迎えた。昨年度まではコロナ禍の影響を受け、休館や参加者が集まらない事があり、中止せざるを得ない事も間々あったが、今年度は全4クール全て開催することが出来た。新生児訪問や産後ケア施設利用時における助産師からの紹介から、参加に繋がる事が多く、行政の協力も引き続きお願いし、連携を続けていきたいと考えている。

どのクールも初回はみな母親達は緊張した面持ちで来館されるが、回を重ねるごとに表情が明るくなり、親子ともに、さらに併せてグループとしての成長が見られることが大変印象的である。最初こそ周りの様子を伺っていた母親達が、自然と他の親子と関わることが出来るようになったり、表情が柔らかく余裕を持てるようになり、他の親子を気に掛けたり、他の子の成長を喜ぶ姿が多々見られた。職員やファシリテーターが全て主導になるのではなく、母親達自身で結束力を持って自ら成長しており、本来のB Pプログラムの在り方に近い姿であったように思う。

全クールにおいて最終回にアンケートを実施しているが、概ね高評価をいただいております。初めての出産、育児で大きな不安の中、プログラムに参加したことでかけがえのない同志を得られたことを心から喜んでいました。このプログラムに参加したことで不安や孤独から解消され、前向きになっている姿が印象的である。

親子が安心して児童館の講座に参加し、終了後も児童館を利用したいと思ってもらえるような雰囲気作りや児童館の紹介を欠かさず行っていきたい。さらにプログラム参加者以外に来館した利用者にも不便や迷惑を感じさせないように、環境設定の配慮を継続していく。

#### (課題と対応)

次年度より募集に際して、区報掲載の依頼を所管課を通さず、直接行っていく事となるため、年4回の初稿日を忘れず行っていく。

このプログラムは初めての育児に直面している母親達を支えるものである。公民館事

業として各区で「ゆりかご学級」が通年開催されているが、新潟市としては、全て予算が「ゆりかご学級」に一本化される動きも少しずつ見られてきている。BPプログラムとゆりかご学級は似て非なるものであり、それぞれの特徴を生かしたプログラム構成となっている。BPプログラムは「第一子」の親子に限定し、同じ立場、境遇に立つ母親同士が集い、育児の楽しさ、困難さを同じ目線で共有できることが最大の利点である。さらには各クール毎回同じファシリテータのもとでプログラムが進行するため、親子の成長、問題にも気づきやすい。BPプログラム参加者の中にはゆりかご学級にも併せて参加している方が少なくない。育児に困っている母親達の受け皿が区内に多くあることは、日々奮闘している母親達の心の拠り所となる。母親達を支える一つの機能として、亀田東児童館は今後も自主事業としてこのBPプログラムを継続していきたい。

##### 5 その他地域の児童の健全育成に必要な活動

今年度の亀田東児童館運営協議会は、これまでの運営協議会会長（亀田東小コーディネーター兼民生員）、亀田東小学校長、亀田中学校長、亀田東小学校区コミュニティ協議会代表、江南区社会福祉協議会、指導保育士、保護司、学識経験者、主任児童委員といった委員に加え、さらに亀田東小PTA会長を新たに委員として迎え、計10名の委員の方々と共に児童館の運営に関して協議を重ねた。第27回を6月19日（月）に開催し、令和4年度の収支報告、令和5年2月～5月までの利用者推移と活動報告、今年度の活動予定について報告し、委員の方々からご意見を頂いた。第28回は2月22日（木）に開催。令和5年6月～令和6年1月までの利用者推移と活動報告、令和6年度の活動計画を報告した。委員の方々からは温かい励みになる言葉や協力的な姿勢をいただけて本当にありがたいばかり。今後もいただいた意見をより良い児童館運営に反映させていきたい。

また、今年度は運営協議会以外でも亀田東小、亀田小、民生員等の地域の関係機関と深く子ども達の様子や情報を共有し、連携を取ることが出来た。亀田小5年男児らの夏休み中の気になる様子を主任児童委員に共有したところ、迅速に小学校まで共有され、そこから子どもの間で大きな金銭トラブルが起こっていることが発覚した。また、亀田東小とは、例年通り亀田東小運営協議会への参加に限らず、8月には東小の主幹教諭、各学年主任、児童館職員、亀田東ひまわりクラブ各職員を交えて児童の情報交換会を行った。そこで児童館、ひまわりクラブを利用する子ども達の様子から先生方による関わり方のアドバイスや学校での様子、友人関係を教えていただけ、前情報のないまま不特定多数の子ども達を受け入れている児童館としては大変ありがたかった。さらに、不登校でありながら放課後の時間帯や休日に下の学年と共に児童館を利用している小学6年男児に関して、友人関係のトラブルや学校での指導の様子など、細かく亀田東小と情報共有し、一貫した指導、対応を行えるようにした。

地域の子どもの健全育成を担う機能として、地域の各関係機関と今後もより密に連携を取り、地域で親子、子どもたちの成長を見守る体制作りを行っていきたい。

## 総括・評価

今年度に入り、亀田東小学校以外の亀田小学校、亀田西小学校等他校区、他区からの小学生の利用が多くなっている。さらに休日には幼児親子の利用が多くなり、全体を通して利用者数が昨年度と比較して増加している。休日は新規も含め、父のみや家族連れでの利用がとて多くなっており、平日と休日では館内の様子がガラッと様変わりしている。今年度も日々の関わり、イベント、講座を通して最大限に利用者に児童館の楽しさ、機能を還元し、子ども達の健全育成、親子を支える取り組みを行う事が出来た。

より良い児童館運営、健全育成のため、今後の課題として2点が上げられる。1つ目は、各関係機関との情報交換・連携、それに伴う職員間の情報共有である。現在、特別な配慮や支援、見守り、所管課や学校等の関係機関との情報共有を必要とする利用者が多くなっている。江南区が情報提供を求めている場合や、私たち職員が対応に困り、関係機関に情報提供を求める場合、小学生の目に余る言動に対して保護者や学校等へ報告する場合など多岐に渡る。引継ぎ専用の記録を利用しながら、日々の職員間の報連相を密に取りながら、より正確な情報を基に関係機関との連携を深めていく必要がある。2つ目の課題は、児童館としての事業の見直しである。乳幼児親子から小中高生を対象に各年代、興味関心に合わせたイベントや事業、講座を様々行っており、「こんなものがあるといいな」という要望もよく聞かれる。しかし対象が広いからこそ、全てを網羅するのは難しく、それに見合った職員配置も実現出来ていないのが現状である。現在、江南区には児童館の他に3つの子育て支援センターがあり、各支援センターでも様々な乳幼児親子対象のイベントを実施しており、児童館の事業と重複しているものも多々ある。今後は各支援センターとの差別化を図ることも必要だと考えている。支援センターにはない児童館の強みは、土日祝日も開館していることと就学以降の小中高生が利用出来る点であると考えている。この2つに視点を絞り、次年度はイベントの見直しを図っている。休日の育児イベントの充実、小中高生の居場所作りを継続して行っていきたい。

児童館は地域の中の子ども、親子を見守り、居場所としての拠点となるべき場所である。今後、児童館のない地域で子ども達の居場所作りが必要とされてくることが考えられる。亀田東児童館は江南区唯一の児童館であり、広い区内ではまだまだ児童館そのものが知られていない。亀田小学校区からは児童館のような子どもの居場所を作れないかという話が上がっていたり、横越地区公民館が私たちと共同で子ども達の居場所事業を行っている。市全体として児童館自体が淘汰されていこうとしている中、新たに児童館を作ることは出来ないが、公民館やコミュニティーセンター等で地域と協力しながら、移動児童館として児童館の機能を移転することは可能だと考えている。学童クラブの需要がより高まっている中、学童クラブの範囲からは外れる幅広い子ども達の受け皿としての児童館の存在価値を高めるには、外部に出て行くことが必要だと考えている。

これからも地域で一体となって保護者も含めた親子を支える体制を作り、この亀田という地域で長く子ども達の成長を見守っていきたい。